

本と旅する

今回の旅のおとも



新編 日本の怪談

ラフカディオ・ハーン(1850~1904年)の代表作を集めた角川文庫版の作品集(池田雅之編訳)。「耳無し芳一」「雪女」「鳥取の布団の話」などを収録している。「布団の話」や「水あめを買う女」などは、ハーンが1894年(明治27年)に出した日本での初の著書「知られぬ日本の面影」に収録され、26刷を重ねるベストセラーとなった。

ハーンは96年に小泉八雲の名で日本国籍を取得。松江を離れた後、現在の熊本大や東大などでも英語や英文学を教え、教育者としても高い評価を得る一方、日本での著作は十数冊を数えた。

津波(tsunami)という言葉が海外で使われるようになったのも、ハーンが採集した民話による影響。作品は子供向けのものも含めて日本で数多く出版されており、怪談集は岩波文庫からも出ている。

ハーンのひ孫で小泉八雲記念館長の小泉凡さんは島根県立大短大部教授として民俗学を教えている。

小泉八雲記念館の館長を務めるハーンのひ孫の小泉凡さん。「21世紀の世界は、異文化を理解し共生を目指すハーンに学ぶ必要がある」と強調する＝松江市奥谷町



「小泉八雲」という名の由来となった「八雲立つ出雲」の古歌で知られる松江市内の八重垣神社。若い参拝客が境内の「鏡の池」に浮かべた和紙に硬貨を載せて恋愛占いをしていた



ハーンの怪談にもつづられた月照寺の巨大な食い鬼の像。松江城に近い月照寺は松江藩主の菩提(ぼだい)寺で、深い木立に包まれ「ゴーストツアー」のコースにもなっている



怪談 幽霊話に熱中したというイメージのあるラフカディオ・ハーン。実は、戦後の日本の形に関わる大きな足跡を残していた

2015年に国定指定され

平和と共生 著作の根底

た松江城の近くに小泉八雲記念館、その隣にハーンとセツ夫妻の旧居が並んでいる。記念館の館長、小泉凡さん55は夫妻のひ孫。「私の名前は祖父の一族が連合軍総司令部(GHQ)のボナ・フェラーズ准将にちなみ、「日米の懸け橋」と名付けたと聞いています」と一家の歴史を語ってくれた。

「地方の民衆が、国家神道とは無縁に素朴な気持ちで天皇を敬っていることをハーンの著作で知っていたからでしょう」と、小泉館長は推測する。

ハーンは松江滞在中の1891年(明治24年)8月、島根半島で日本の巡洋艦を見た。「その建造費用は膝まで没する泥田で骨折りが、そのころ」

メを食べられない数百万の貧民が出している。破壊の目的のたの科学の奇怪な創造物」紀行文に書いたこの感想に、鋭い文明批評と平和を愛する思想がのぞく。明治の日本が富国強兵と進む道を歩んだなら「鳥取の布団の話」のような悲劇も起きなかったろう。

日清、日露戦争の勝利に沸き、おごり高まる国民を見て「将来の危機がある」と懸念し、戦場の教養子に手紙を書き送つてもいる。後の悲惨な敗戦を予見していたとも言える。

「ハーンの予測通りに日本が引き起こした戦争が周辺の国々に災難を与え、禍根を残したまま今日に至っている」。松江市の実業家、小松昭夫さん(78)はハーンの歴史認識に敬服し、韓国や中国などの平和の推進を目指している。

水利施設の集中制御・監視システムや高速シートシャッターで知られる小松電機産業の社長で、平和や環境問題を発信するため設立した財団法人人間自然

科学研究所の理事長。商用で訪れた韓国で不愉快な思いをさせられたことから、日韓関係を学び始めた。

例えば、伊藤博文を暗殺した安重根は韓国では「英雄」だが、日本では「テロリスト」と扱われ、評価は対立。従軍慰安婦や領土問題でも両国の溝は深い。小松さんは、ソウルにある安重根義士記念館を何度も訪れており、施設改修のために寄付も行った。

中国の南京大屠殺記念館へも経済人の見学を率いるなど訪問を重ね、シンポジウムに招かれたこともある。同記念館の朱成山名誉館長とは各国の平和記念館同士ネットワーク作りや戦争で犠牲になった人たちの名を刻むモニュメント設置を協議しているという。

国境を閉ざし、共生よりも自国の利益を叫ぶ政治指導者が世界中に目立つ昨今だが、「対立が深まる時代こそ、異文化を理解し、共生を目指すハーンの精神が求められる」と小松さん。

ハーンが愛した出雲の地から、平和のための情報発信をと意気込んでいる。

難読地名 アイヌ語と関係?

松江や隣の出雲市には、北海道と同じく読みにくい地名が多い。例えば、十六島と書いて「うっふるい」。名産の岩ノリを打ち振るって乾燥させた「が語源という。恵雲、出雲郷なども難読地名だ。

松江には七類、道内には忠類、サシリ岬など「るい」が付く地名があるのも共通点。十六島の海岸近くには発電用の風車がたくさん立っていた。道内の宗谷管内幌延町音類でも日本海の風を受け

て風車が回る風景が見られる。ラフカディオ・ハーンの親友で勤務先の島根県尋常中学校(現・松江北高)の教頭だった西田十太郎は、これらの地名がアイヌ語の可能性を検討した。ハーンを介してアイヌ語研究で知られる札幌在住の宣教師ジョン・パチェラーに問い合せている。

「うっふるい」についてパチェラーは「湯気が多い」温泉がある場所や「ひどく踏む」というアイヌ語での解釈を回答している。

松江や隣の出雲市には、北海道と同じく読みにくい地名が多い。例えば、十六島と書いて「うっふるい」。名産の岩ノリを打ち振るって乾燥させた「が語源という。恵雲、出雲郷なども難読地名だ。

松江には七類、道内には忠類、サシリ岬など「るい」が付く地名があるのも共通点。十六島の海岸近くには発電用の風車がたくさん立っていた。道内の宗谷管内幌延町音類でも日本海の風を受け

て風車が回る風景が見られる。ラフカディオ・ハーンの親友で勤務先の島根県尋常中学校(現・松江北高)の教頭だった西田十太郎は、これらの地名がアイヌ語の可能性を検討した。ハーンを介してアイヌ語研究で知られる札幌在住の宣教師ジョン・パチェラーに問い合せている。

「うっふるい」についてパチェラーは「湯気が多い」温泉がある場所や「ひどく踏む」というアイヌ語での解釈を回答している。

松江や隣の出雲市には、北海道と同じく読みにくい地名が多い。例えば、十六島と書いて「うっふるい」。名産の岩ノリを打ち振るって乾燥させた「が語源という。恵雲、出雲郷なども難読地名だ。

八雲立つ日本・出雲から陽が昇る

対立の文化から共生の文化へ

2008年10月に作られた「対立の文化から共生の文化へ」資料の更新にあわせ、当研究所の活動紹介資料をホームページよりご覧いただけます。その他資料も電子書籍ページでご覧頂けます。

竜生九子(りゅうせいきゅうし)

中国の伝説上の生物で、竜が生んだ九匹の子を指す。それぞれ姿形も性格も異なっている。各々の性格に合わせた場所で各々の活躍を見せるが、親である竜になることはできなかったという。これを「竜生九子不成竜」と言う。また、兄弟でも性格が違う事を指してこの言葉を用いる事もある。竜生九子という言葉は古くからあったが、生んだ子がどのようなものだったのかはずっと語られなかった。明の時代になりさまざまな書物に記載されるようになったが、記載されている書物によって名前・順序が異なる。

『升庵外集』(楊慎、1488-1559)と『天禄識余』の説によれば、次の9匹。

1. 虺蜺(ひきびし) 竜に似ている。重きを負うこと好む。
2. 螭吻(ちふん) 獣に似ている。遠きを望むこと好む。
3. 蒲牢(ぼろう) 竜に似ている。吼えこと好む。
4. 狔耳(けんい) 虎に似ている。力好む。
5. 饕餮(とうてつ) 獣に似ている。飲食を好む。
6. 蚣蝱(こもう) 虫に似ている。はか 魚に似ている。水を好む。
7. 睚眦(やう) 竜に似ている。殺すこと好む。
8. 狻猊(さんげい) 獅子に似ている。
9. 椒圖(けうと) 貝に似ている。貝も蛙に似ている。

◇虺蜺(ひきびし)は、中国における伝説上の生物。石碑の台になっているのは 亀趺(きふ)と言う。中国の伝説によると、虺蜺は龍が生んだ9頭の神獣・竜生九子のひとつで、その姿は亀に似ている。重きを負うことを好むといわれ、そのため古来石柱や石碑の土台の装飾に用いられることが多かった。日本の諺「虺蜺の引き倒し」とは、「ある者を虺蜺しすぎると、かえってその者を不利にする、その者のためにはならない」という意味の諺だが、その由来は、柱の土台である虺蜺を引っばると柱が倒れるからに他ならない。

竜溪洞(りゅうせきどう)

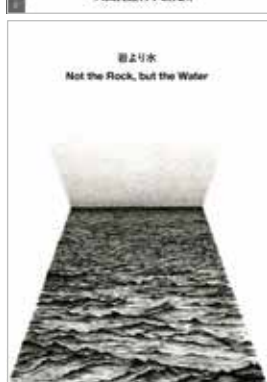
中海に浮かぶ「火山島」大根島は、約20万年前、島のほぼ中央にある大塚山の火山活動によって誕生し、大塚山は標高42m「日本一低い火山」として知られています。また、朝鮮人参・牡丹・由志園・中村元博物館、水木しげるロード・米子鬼太郎空港にも近く、年間215万人もの観光客が訪れます。

山号に「龍」のつく中海・穴道湖周辺寺院 (書籍『島根県の寺院』より)

1. 法龍山 善福寺(松江市西津町)
2. 龍淵山 桐岳寺(松江市奥谷町)
3. 龍翔山 華嚴寺(松江市枕木)
4. 宝龍山 洞泉寺(松江市西持田)
5. 養龍山 安楽院報恩寺(松江市玉湯町)
6. 臥龍山 宗淵寺(松江市東出雲町)
7. 松龍山 妙栄寺(雲南市加茂町)
8. 黄龍山 徳雲寺(出雲市西郷町)
9. 龍王山 薬王寺(出雲市今市町)
10. 天龍山 文殊院(出雲市大社町)
11. 雨龍山 正覚寺(雲南市木次町)
12. 龍山 洞光寺(雲南市木次町)
13. 雲龍山 城安寺(安来市広瀬町)
14. 臥龍山 円通寺(雲南市掛合町)
15. 蓮龍山 覚融寺(奥出雲町亀蔵)
16. 松龍山 栄泉寺(吉賀町柿木)
17. 龍宝山 圓通寺(吉賀町柿木)

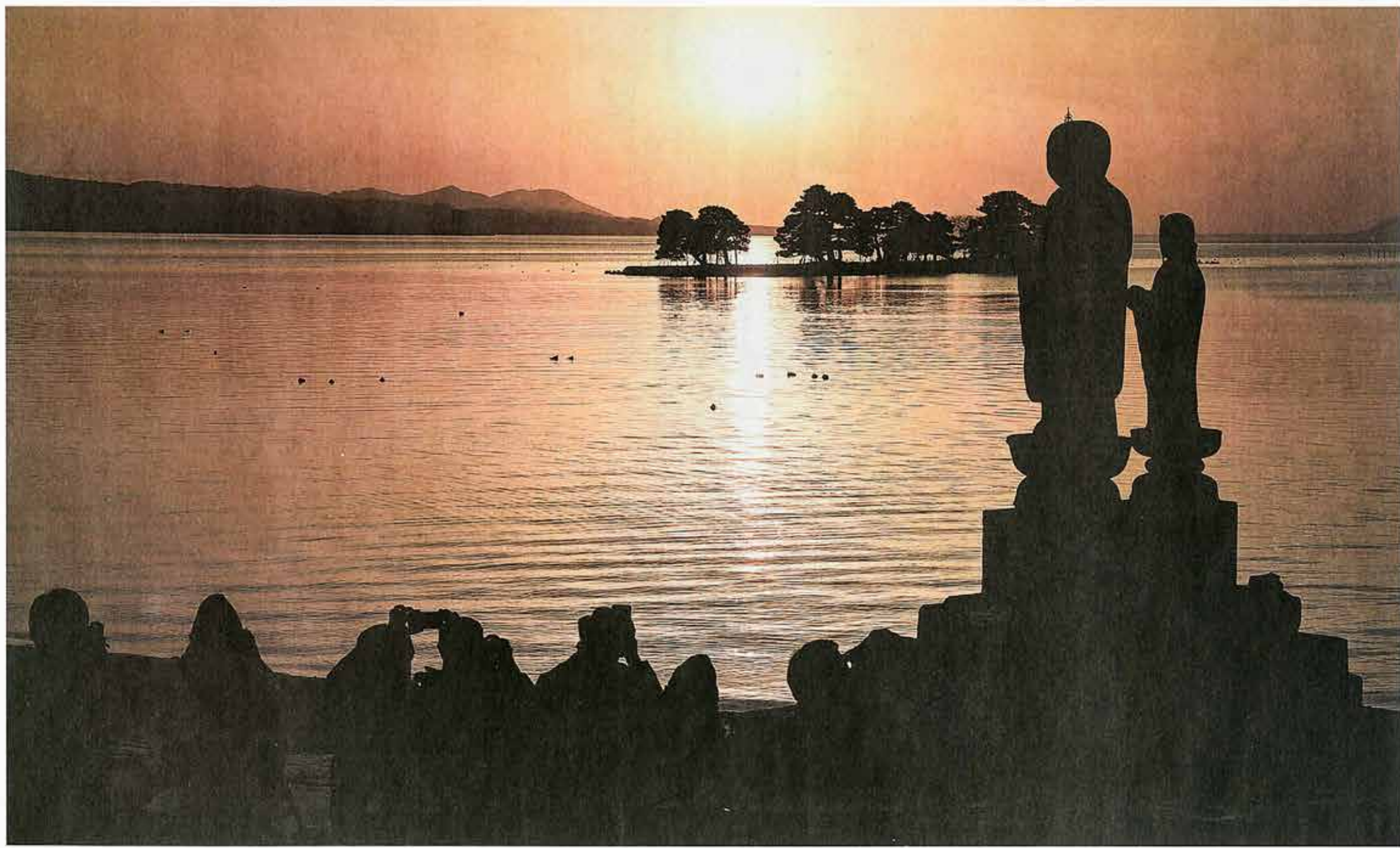
山陰中央新報「明窓」より一部引用(2017年3月18日)

日本の神様は働き者だ。有名なところでは太陽を神格化した神様で、皇室の祖神(皇祖神)の天照大神も「日本書紀」の中に、機織りをしている姿で登場する。他の日本の神様も一人一役、仕事を持っている。一方、キリスト教では、労働は苦役の一面を持つ。人間の始祖アダムとイブは、神との誓いを破って禁断の木の実を食べ、天国・エデンの園から追放され、地上で労働を強いられた。日本の神道は、何もかもを命を生み出す「産霊」の行為を最大の善行と考える。精魂を込めると物にも命が宿る。それが「ものづくり」の使命感となり日本社会を支えた。日本人に宿る産霊は、繁栄の基盤なのだ。



と本と旅する

松江 島根県



六道湖の湖畔の仏像と小島を結んだ先に沈もうとする太陽。「夕日スポット」に集まった人々が、あかね色の水平線に向かってシャッターを切っていた。松江市

するとすぐに、先ほどの悲しげな声が聞こえてきました。(中略)
「あにさん、寒かろう」
「おまえ、寒かろう」
ここへきて初めて、客はぞつと寒気がしました。

ラフカディオ・ハーン「鳥取の布団の話」

怪談の宝庫に魅せられて

冬の山陰には珍しく雲一つなかった松江の一日が暮れようとしていた。カメラを手にした人々が、撮影に努める夕日湖畔の「夕日スポット」に集まってきた。

1890年(明治23年)、40歳で松江にきた島根県のお雇い英語教師、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)も、この場所から見る夕日を愛した。

ギリシャ生まれ、アイルランドで育ち、米国南部でアフリカ系の人々の文化に親しむなど、異文化への理解を重ねてきたハーンは、松江でも素晴らしい語り部に出会った。夕日が沈み、夜になると、後に妻となる小泉セツが幽霊たちが躍動する物語を語ってくれた。

「鳥取の布団の話」は、宿屋で眠りについた客が、凍える幼い兄弟の声を聞いて目を覚ます。客が寝ていた布団は実は、両親を失った家賃を払えなくなった兄弟から強欲な家主が取り立てたものだった。

来日前、米国ではジャーナリストのかたわら、作家として民衆に伝わる説話を洗練された物語に仕立て上げる「再話」を目指していた。

文・中尾 吉清
写真・村本 典之
2面に続く

日曜
Navi
ナビ

CONTENTS

星占い

週間 Navi
2月20日~26日の番組表

味彩ファイル

おしゃべりルーム
プレゼント

「民公」連携・地方創生を推進、広域クロスオーバーで新産業を創出
クラウドの先駆け 総合水管理システム

やくも 水神
yakumo Suishin

2000年発売以来
440自治体
10,000施設突破
2017年2月現在

水のICTであなたの街 日本 世界が変わる



八雲立つ 日本・出雲から陽が昇る



周藤彌兵衛翁 (1650 ~ 1752 / 松江市八雲町)
56歳一念発起、97歳「刺山切通し」完成、102歳大往生。イザナミ御後前のお姫様(山姥)の刺山を火で熱し、ミミと袖で切りくずし、村人の命や田舎を奪う意字川の流れを変えた。中国山東省濰州で制作、八雲町観光公園に仮設建立。270×280×170(cm)

ベルタ・フォン・ズットナー (1843 ~ 1914 / オーストリア・ウィーン)
第一次世界大戦前夜「武器を捨ててよ」の野望化を発表した平和活動家。1905年女性初ノーベル平和賞受賞。カーネギー財団発注によりオランダ芸術家イングリッド・ロレマ氏制作。富山県高岡市に制作依頼。八雲立つ出雲から全国 世界へ 192×85×73(cm)

研究所関連書籍 「新しい和の文化」が生まれる地方創生を目指して

空間価値を創造 節電・省エネ・品質管理に
happy gate monban 門番

1980年発売以来
160,000台達成
2017年2月現在
東京築地・豊洲新市場に大量採用



市場創造メーカーの責任
30年前の部品も安定供給

小松電機・イカリ消毒・大成FC 共同企画
高防虫 マジック オプトロン
誘引阻止率 80%

静音・高耐久
門番チューブ・自動復帰

安全・安心
停電時の非常脱出・煙遮断

外面 内面
虫の侵入を防ぎ 入った虫を外へ誘導

動作音 10% 減 省メンテナンス ラクラク脱出 高気密構造

小松電機産業株式会社
http://www.komatsuelec.co.jp
松江市乃木福富町 735-188 湖南テクノパーク内 TEL 050-3161-2490

人間自然科学研究所
http://www.hns.gr.jp
東京・大阪・仙台・松江・ソウル・バンコク

社 是 社業を通じて社会に喜びの輪を広げよう
1981年制定 経営理念 おもしろ おかしく たのしく ゆかいに 行動指針 三方良し 後利